

# 孔子の言葉

組 番 ( )

)

【単元の過程】(三時間構成)

- ① 漢文訓読の仕方の確認・文学史・本文の音読
- ②③ 「中学生の論語解釈・説明書」の作成

## ◎【文学史】「論語」

○書かれた時代(年代)：

○内容

の言行録

を追求した内容(後の

の祖)

## ◎【訓読のきまり】

感 時 花 濺 涙

右の漢字のみの文章の状態を「

」といたします。

そして、これに句読点、送り仮名、返り点などをつけて読み方を示したものを

「

また、→を、訓読の決まりに従って漢字仮名交じり文に改めたものを

「

## ◎【返り点の仕組み】(復習)

- ① 点      ② 点      ③ 点      ④ 点

## 【返り点 エクササイズ！】

次の漢文の読む順番を漢字の右側に書きなさい。

① 走<sub>レ</sub> 馬<sub>ヲ</sub> 西<sub>ニ</sub> 来<sub>ル</sub> 欲<sub>ス</sub> 到<sub>ル</sub> 天<sub>ニ</sub>。

② 西<sub>ノ</sub> 出<sub>ニ</sub> 陽<sub>ヲ</sub> 関<sub>一</sub> 無<sub>ニ</sub> 故<sub>一</sub> 人<sub>一</sub>。

③ 不<sub>下</sub> 為<sub>ニ</sub> 児<sub>一</sub> 孫<sub>一</sub> 買<sub>ハ</sub> 美<sub>一</sub> 田<sub>上</sub>。

④ 楚<sub>ノ</sub> 人<sub>一</sub> 有<sub>リ</sub> 鬻<sub>ニ</sub> 盾<sub>一</sub> 与<sub>レ</sub> 矛<sub>一</sub> 者<sub>上</sub>。

## ◎【置き字】

※ 「而」「於」「の」のように読まない文字を「」とします。



# 中学生の『論語』解釈&説明書！ 記入例

二年 組 番 氏名 木暮（メガネくん）

◎さまざまな孔子の言葉に触れ、自分の生活にもついでに論語を解釈し、活用しよう

①選んだ孔子の言葉（書き下し文）※主張の部分だけ

※一部分でもよい  
共感を得られた言葉を選ぶ

学んで思はざれば則ち罔く、思ふて学ばざれば則ち殆し。

②自分なりの解釈（孔子の教え）

自分が読みとった『孔子が伝えたいこと』  
を書く。 ※現代語訳でもよい

自分自身でもよく考え、そして人にもよく学ぶ人が上達する人である。

③選んだ言葉にまつわる“体験”と“今後に生かせること”

海南大学附属高校との試合中、と素人である桜木は、フリースローのチャンスを一度失敗している。しかし、二度目のチャンスが回ってきたとき、彼がとった方法は意外であった。それは、両手で下から投げる方法である。普通の投げ方では入らないと判断した彼は、自分の頭で考えその投げ方にいきついたのである。

“体験”とは、見たこと・聞いたことでもよい。  
例・部活動の中で…・学校生活の中で…・テレビ（本）で…

素人であるが故、たぐさんのような素人から櫻木になる彼が自分も素人から上達する彼の姿を見て「よしよしで上達が早いわけだ…」と感心した。

人に教わって、その通りに動くことは大切であるが、何も考えずただその通りに動いているだけではだめだと感じた。桜木のように、自分の頭で一生懸命考えてバスケットに臨もうと思った。自己考え、上達する人になりたい。

孔子の言葉と自分の体験を重ね、そこから感じたこと、考えたこと、今後に生かせることを書く。例「今まではこうだったけど、これからは…したい」など、孔子の言葉から同じような体験を思い出し、得た教訓などを書く。